

要塞砲兵操典 第一篇部

特

7

始



特 65
763 6551/23

要塞砲兵操典

第一部 海岸砲操法

第一篇 二十八珊米榴彈砲操法

目次

第一章 單砲操法

總則

第一教

兵員ノ番號及七職務

頁數

四十三



八
一
十五
十六
一
一

目次

牛

7

操法ノ準備及七兵員ノ定位	十一
終業	十五
檢査法	十六
第二教	
四節裝填法	二十二
位置交換法	三十九
砲架前進法	四十二
第三教	
隨意裝填法	四十三

空射法	五十
缺兵動作法	五十
第四教	
砲身洗淨法	五十二
砲架退却法	五十四
彈藥回出法	五十六
閉鎖機及撐轉架ノ装着分解	六十一
第二章 數砲操法	六十七

目次

三

總則

六十七

第一教

操法ノ準備

六十九

終業

七十

四節裝填法

七十二

隨意裝填法

七十二

目標變換法

七十六

第二教

五十

中隊ノ班別

七十七

戰鬥準備

七十九

發射

八十

集合

八十一

附錄

第一章 砲、砲架、架匡及砲床

ノ名稱

八十二

第二章 彈藥裝填具及附屬具

目次

五

第二章 ノ名稱 器具及附屬具

九十

六

ノ名稱 八十二

ノ名稱 八十一

ノ名稱 八十

ノ名稱 七十九

ノ名稱 七十八

ノ名稱 七十七

ノ名稱 七十六

要塞砲兵操典

第一部 海岸砲操法

第一編 二十八珊米榴彈砲操法(基準砲)

第一章 單砲操法

總則

第一條 單砲操法ニ在テハ可成上等兵若クハ古參ノ兵卒ヲ以テ砲車長ノ任ニ充テ軍曹自ラ教官トナリ教授ヲナス

第二條 一班トシテ教授スヘキ定員ノ他、剩餘ノ人員アルハ砲車ノ外側ニ列シテ各砲手ノ操作ヲ見學セシメ逐次之レヲ交

換シテ演習セシムヘシ

第三條 操作ノ説明ニ先チ所要ニ應シ逐次附録ニ記載スル處ノ名稱ヲ教授スヘシ然レモ悉皆教授スルヲ要セス其最モ必要ナルモノヨリ漸次ニ教授スルヲ可トス

第四條 操法ヲ教授スルニ先チ各機關ノ機動ニ着意スヘキ要領ヲ會得セシム其項目約子左ノ如シ

架匡ノ扛起 閉鎖機ノ開閉 照準轉把及ヒ射角鋸ノ用法 裝填管及ヒ彈提鍵ノ用法

第五條 凡テ各砲手ハ其職務ヲ確實ニ施行シ決シテ他事ニ干

與スルコトナク運動ハ活潑整肅ニシテ且ツ材料ノ保存ニ注意スルヲ要ス

第六條 操法中砲手ノ動遷ハ彈藥ヲ運搬スルモノ、外總テ駈歩ヲ用ユルモノトス

演習中兵卒ハ略裝ヲ爲シ刀ヲ帶ハス

第一教

第七條 操法ヲ始ムルニ先チ砲車長ハ部隊ヲ率ヒテ倉庫ニ至リ左一番砲手ノ助ケヲ以テ火砲使用ニ所要ノ器具ヲ各砲手ニ分配シテ砲側ニ至リ各定位ニ配備セシメ砲架覆、砲口栓、側梁蓋等

ヲ脱シテ所定ノ地ニ置カシム

第八條 一砲車ヲ使用スル爲メ所要ノ器具及定位置左ノ如シ

砲側

器具架

砲車ノ右側約二米ニシテ其前方ハ架匡ノ前端ト齊頭ニナシ約一米ヲ隔テ、置キ架上ニ左ノ諸器具ヲ置キ各其頭部ヲ前方ニ

- 撞桿一
- 掃桿一
- 洗桿一
- 洗桿接
- 續桿一
- 抽彈器一
- 背心輪槓桿

一一

裝填管一

握把ヲ前方ニナシ管樽上ニ置ク

火門針一

火門針孔ニ挿ス

表尺一

表尺孔ニ挿ス

象限儀一

匣ニ收メテ前方器具架ノ横材上ニ置ク

油罐二

握把ヲ内方ニ向ケ砲架ノ後横板ニ設クル鉤ニ掛ケ左方ハ「グリスリン」右方ハ「ペルモンチー」油ヲ入ル

門管囊一

門管螺輪ヲ收メ左方ノ鐵欄ニ掛ク

器具囊一

囊中ニハ抽機具轉把、鐵桿各一、木篋、木綿、麻屑各若干、裝填衣二、及拉繩ヲ收メ右方鐵

欄ニ掛ク

水桶一

石礮溶液ヲ入レ器具架ノ前方ニ置ク

彈提鏈及提把各一

揚彈機ノ鉤ニ掛ク

補給庫

送彈車二

擔棍二

信管螺鑰一

彈提鏈及

提把一 裝藥管一

補註

補給庫ト假定シタル地ニアツテハ以上ノ諸器具

ハ第一圖ニ準シテ配置ス

此他ノ器具ハ倉庫ニ格納シ所要ニ從テ使用スルモノトス

第九條

一砲車ヲ使用スルニハ左ノ兵員ヲ要ス

砲車長

一名

補給庫長

一名

火工手

一名

砲手

九名

助手

五名

砲車長自ラ照準ヲ爲ス事アリ然ルルハ砲手ハ八名トス

各砲手ハ二列ニ編成シ架匡ノ後端ヨリ一米ヲ隔テ、火砲ニ面シ
而シテ前列ヲ左砲手、後列ヲ右砲手トナシ砲車長ハ前列ノ右翼
ニ位置ス

八

助手ハ補給庫(或ハ補給庫ト假定スル地)ノ後方ニ於テ二列ニ編
成シ前列ヲ左助手後列ヲ右助手トシ而シテ補給庫長ハ前列ノ右
翼ニ火工手ハ後列ノ左翼ニ位置ス

兵員ノ番號及ヒ職務

第十條 各砲手ヲシテ番號ヲ唱ヘシメン爲メ教官左ノ號令ヲ
下ス

番號

此令ニテ兩部隊ノ前列兵ハ右翼ヨリ逐次番號ヲ唱ヘ而シテ砲手
ハ一ヨリ五、助手ハ一ヨリ二ニ至ル

補註 演習中砲手及助手ヲシテ「休メ」ノ姿勢ヲ執ラシムル
トアリ又操作ヲ始ムルニハ「氣ヲ着ケ」ノ姿勢ニ復サシムヘ
シ

第十一條

砲車長ハ所要ノ號令ヲ下シ各砲手ノ操作ヲ監督
シ火砲材料ノ保存及ヒ其運轉機動ニ注意シ而シテ左五番砲手ヲ
置カサルハ自ラ照準ヲナス

兵員ノ番號及ヒ職務

九

左一番砲手ハ閉鎖機ノ使用及ヒ裝填ヲ掌リ右一番砲手ハ之ヲ助
ク（舊式砲架ニアリテハ左右一番砲手ハ架匡扛起機ノ轉輪ヲ使
用ス）

左二番砲手ハ左三番砲手ヲ助ケテ彈丸ヲ扛ケ方向照準機ノ轉把
ヲ使用ス右二番砲手ハ發火ヲ掌リ裝填諸器具ヲ右一番砲手ニ授
受ス（舊式砲架ニアリテハ左右二番砲手架匡扛起桿ヲ使用ス）
左右三番砲手ハ方向照準機ノ轉把ヲ使用ス（舊式砲架ニ在テハ
又架匡扛起桿ヲ取ル）而シテ左三番砲手ハ揚彈機ノ使用ヲ掌リ
左二番砲手ノ助ケヲ以テ彈丸ヲ扛ケ

左右四番砲手ハ上下照準機ノ轉把ヲ使用ス

左五番砲手ハ照準ヲ掌ル

補給庫長ハ彈丸ヲ整備シ彈藥ノ配賦ヲ指揮ス

左右一番二番助手ハ彈丸ヲ搬送ス

火工手ハ裝藥ノ分配ヲ掌ル

左三番助手ハ裝藥ヲ搬送ス

操法ノ準備及ヒ兵員ノ定位

第十二條 演習ヲ始ムルニ先チ架匡ヲ扛起シ演習終レハ之レ

ヲ降下ス

架匡ヲ扛起シ或ハ降下スルニハ「架匡ヲ上ケ」或ハ「架匡ヲ下ケ」ノ告諭ニテ照準手ヲ除クノ他、左右ノ砲手ハ各側ノ扛起螺輪ヲ取リテ前方扛起機ノ駐牝螺ニ嵌シ左右一番砲手ハ内方二、三、四番砲手ハ順次外方ニ在テ扛起螺輪ヲ取ル砲車長ハ準備整フヲ見レハ「扛ケ」ト呼フ此呼號ニテ左右同時ニ架匡ヲ扛起ス然シテ架匡適度ニ扛起セハ砲車長ハ「止メ」ト呼フ次ニ同法ヲ以テ後方扛起機ヲ扛ケ螺輪ヲ故位ニ復スヘシ
架匡ノ扛起ハ其下面砲床軌鐵ヲ離ル、一ニ乃至三密米ヲ適度トス

第十三條 各砲手ヲシテ定位ニ就カシメント欲セハ教官左ノ令ヲ下ス

掛レ

此令ニテ左砲手ハ左向、右砲手ハ右向ヲナシ架匡ノ兩側ニ於テ左砲手ハ左側、右砲手ハ右側ニ至リ左ノ定位ニ就ク
左右一番砲手ハ架匡後端ノ外側二米。後方一米。ヲ隔テ、互ニ相對向ス左右二番三番四番砲手ハ逐次砲口ノ方ハ五十。珊。米。ノ間隔ヲ取リ左右一番砲手ニ整頓ス
右一番砲手ハ直ニ裝填衣ヲ採リ左一番砲手ニ渡シ又自ラ之ヲ着

ス左一番砲手ハ裝填衣ヲ着シ直ニ門管囊ヲ採リ左肩ヨリ右脇ニ掛ケテ定位ニ復ス

左右二番砲手ハ左右一番砲手ノ裝填衣ヲ着スルヲ助ケ右二番砲手ハ拉繩ヲ頸ニ掛ケ右三番砲手ハ離合齒輪ヲ接合シテ定位ニ就ク

左五番砲手ハ砲ノ軸線上架匡ノ後方一米ノ地ニ於テ火砲ニ面ス

砲車長ハ右一番砲手ノ後方一米ノ地ニ在リ然レモ各砲手ノ操作ヲ監視セシ爲メ適宜ノ位置ニ遷移スルモ妨ケナシ

補給庫長ハ所要ノ號令ヲ下シ其部下ヲ誘導シテ庫内ニ入ラセム

補註 補給庫ト假定セタル地ニアツテハ「掛レ」ノ令ニテ補給庫長、火工手及各助手ハ直チニ第一圖ノ位置ニ就ク

終業

第十四條 各兵員ヲシテ砲後及補給庫ノ後方ニ復サシメント欲セハ教官左ノ令ヲ下ス

下カレ

此令ニテ左右二番砲手ハ左右一番砲手ノ裝填衣ヲ脱スルヲ助ケ

左右一番砲手右二番砲手ハ器具及ヒ裝填衣ヲ復シ右三番砲手ハ
離合齒輪ヲ離脱ス而シテ各砲手ハ第九條ノ位置ニ復ス
補給庫長ハ「下カレ」ノ告諭ヲ爲シ其部下ヲシテ諸器具ヲ整頓セ
シメ次ニ所要ノ號令ヲ下シテ第九條ノ如ク整列セシム

檢査法

第十五條 操法ヲ始ムルニ先チ火砲、器具ヲ檢査シ缺損遺漏
ナキヤ否ヲ確實ナラシムル爲メ教官左ノ令ヲ下ス

改メ

此令ニテ左一番砲手ハ閉鎖機ヲ開キ腔中、閉鎖機、塞鑲及ヒ門管

囊ヲ檢査ス

閉鎖機ヲ開クニハ轉把ヲ回轉シテ螺體臂ヲ駐筈ニ觸接セシメ次
ニ抽機具ノ轉把ヲ回轉シテ閉鎖機ヲ少シク抽出シ右一番砲手ト
共ニ片手ニテ握把ヲ取り他手ニテ撐轉架ヲ壓シ徐々ニ之ヲ抽出
シ然ル後、右手ニ握把ヲ取り左手ニ駐開器ノ轉把ヲ取りテ右方
ニ開キ駐閉爪ニ鈎スヘシ

補註 射擊間ハ通常抽機具ヲ用ユルヲナシ只ダ塞鑲彈力ヲ

失ヒ閉鎖機抽出シ難キト之ヲ使用スルモノトス

塞鑲及ヒ塞鑲室ハ殊ニ細心注意シ損傷錆班塵芥等ナキヤ否ヲ檢

檢査法

スヘシ

遊頭ハ駐頭此螺ヲ以テ適宜ニ保持シ螺體中ニ回轉シ得ヘキヤヲ
 確ムヘシ之カ爲メ遊頭ノ側面ニ設クル孔ニ鐵桿ヲ挿入シ之ヲ旋
 回シテ其適度ヲ檢スヘシ
 閉鎖ノ完全ナルハ轉把上ニ刻セル標矢、砲尾面ニ刻セル閉鎖界線
 間ニ至ルニ右手尋常ノ力ヲ以テ閉鎖シ得ルヲ適度トス
 左一番砲手閉鎖機各部ノ檢査畢レハ右手ニ握把ヲ取り左手ニテ
 駐閉機ノ頭部ヲ上ケ左方ニ閉チ右一番砲手ノ助ケヲ以テ閉鎖機
 ヲ押入シ轉把ヲ回轉シテ閉鎖スヘシ

補註 閉鎖機ハ裝填發射ノ時或ハ閉力ヲ檢査スル場合ヲ除
 クノ外ハ完ク閉鎖スルコトナク常ニ轉把一回轉ノ位置ニ在ラ
 シムヘシ

右一番砲手ハ左一番砲手ノ閉鎖機ヲ開閉スルヲ助ケ抽機具轉把
 及ヒ鐵桿ヲ器具囊ヨリ出シテ左一番砲手ニ渡シ次ニ火門針及ヒ
 火門ノ貫通ヲ檢シ左一番砲手使用ノ後ヲ抽機具轉把、鐵桿ヲ器
 具囊ニ收メ器具囊中ノ器具ニ缺損遺漏ナキヤヲ確メ油罐、裝填
 管及表尺ヲ檢査ス
 左二番及ヒ右三番砲手ハ方向照準機ノ各部、側梁上面ノ淨拭ヲ

検査ス(舊式砲架ニ在テハ更ニ架匡扛起機ノ機能ヲ檢ス)
 右二番砲手ハ器具架上ノ諸器具及ヒ拉繩ヲ檢シ砲架、架匡各部
 ノ諸螺子ヲ検査ス
 左三番砲手ハ揚彈機ノ機動、彈提鍵及ヒ提把ヲ檢シ砲架、架匡
 各部ノ諸螺子ヲ検査ス
 揚彈機ノ柱臂ハ常ニ架匡側梁ト平行ナラシムヘシ
 左右四番砲手ハ上下照準機及ヒ駐退管ヲ検査ス
 左右三番及四番砲手ハ背心輪ノ槓杆ヲ採リ砲架前進ノ機能ヲ檢
 ス

砲車長ハ架匡扛起ノ適宜ナルヤ否ヲ檢ス

各砲手検査畢レハ速ニ定位ニ復ス

第十六條 補給庫長ハ第十三條ノ如ク其部下ヲ補給庫ニ入ラ
 シメタル後「改メ」ノ告諭ヲ爲シ自ラ彈丸、信管、彈提鍵、提把、擔
 棍、及ヒ送彈車(揚彈機)ヲ検査シ且火工手ヲシテ庫内ノ裝藥、裝
 藥管、門管ヲ検査セシム

第十七條 各砲手及ヒ火工手ハ検査ノ際、缺損遺漏又ハ不正
 ナル點ヲ發見セハ速ニ砲車長及ヒ補給庫長ニ報告シ砲車長及ヒ
 補給庫長ハ之ヲ教官ニ報告スヘシ

砲車長及ヒ補給庫長ハ各砲手及ヒ火工手ノ検査確實ナルヤ否ヤ
ヲ監視ス若シ検査ノ粗漏ヨリ故障ヲ生スルキハ其責ニ任ス

第二教

四節装填法

第十八條 四節装填ヲナサシメント欲セハ教官左ノ令ヲ下
ス

四段込方

- 一 堅鐵彈込メ
- 何吉瓦幾何

二 込メ

幾ツ右(左)

何度幾ツ

三 狙ヘ

四 止メ

砲車||打テ

「堅鐵彈込メ」ノ令ニテ左右四番砲手ハ要スレハ駐轉把ヲ開キ砲
身ヲ水平ニナシ再ヒ駐轉把ヲ閉テ其位置ニ止ル砲身ヲ俯仰スル
ニハ左四番砲手「上ケ」「下ケ」「止メ」ト呼ヒ右四番砲手ヲシテ之
ヲ助ケシム

補註 舊式砲架ニアリテハ此令ニテ左ノ操作ヲ爲シ架匡ヲ
扛起セシム

左右一番砲手ハ速ニ架匡ニ上リ右一番砲手ハ後方ニ向ヒ左
一番砲手ハ側方ニ面シテ扛起機ノ轉輪ヲ取り左右二番砲手
ハ内方ニ左右三番砲手ハ外方ニ在テ各其側ノ扛起桿ヲ取り
砲車長ハ「上ケ」ナル呼號ヲナシ各砲手協力一致シテ迅速ニ
架匡ヲ扛起セシム（左右二番及ヒ三番砲手ハ先ツ扛起桿ノ
索ヲ取り漸ク扛起スルニ從テ桿端ヲ取ルヘシ）
左五番砲手ハ照準踏飯ニ上ル

架匡適宜ノ位置ニ扛起セハ砲車長ハ「止メ」ト呼ヒ左五番砲
手ハ轉輪ヲ保ツ

左右一番砲手ハ砲尾ニ至リ左一番砲手ハ右一番砲手ノ助ケヲ以
テ閉鎖機ヲ開ク

右一番砲手ハ左手ニテ裝填管ノ握把ヲ握リ右手ニ後部ノ上縁ヲ
取り之ヲ保持シテ砲尾ニ至リ其前端ヲ上ク左一番砲手ハ右腕ヲ
后方ヨリ管内ニ挿入シ右一番砲手ハ右手ヲ放チ左一番砲手ヲ助
ケ閉鎖機竅ニ挿入ス次ニ右二番砲手ヨリ洗桿ヲ受取り左一番砲
手ト共ニ腔綫ノ起部マテ挿入シ三回々轉シテ藥室ヲ掃除シ然ル

后チ右二番砲手ニ復シ同砲手ヨリ掃桿ヲ受取リ藥室ノ燼渣ヲ除キ之ヲ復ス

補註 左右一番砲手洗桿ヲ抽出スルキ片手ニ裝填管ヲ押シテ其脱出ヲ防キ他手ニテ洗桿ヲ抽出スヘシ又砲車長ハ要スレハ右三番砲手ヲシテ左右一番砲手ノ洗桿ヲ抽出スルヲ助ケシム

左五番砲手ハ照準踏板ニ上ル
右二番砲手ハ洗桿ヲ右一番砲手ニ與ヘ直ニ掃桿ヲ取リ右一番砲手洗桿ヲ復スルト同時ニ之ヲ與フ而シテ逐次ニ洗桿及ヒ掃桿ヲ

器具架ニ復シ然ル后チ撞桿ヲ取リテ砲側ニ至リ其場ニ停立ス各器具ハ常ニ其頭部ヲ砲口ノ方ニシテ之ヲ賦與スルモノトス
左二番三番砲手ハ揚彈機ノ傍ニ至リ左二番砲手ハ外方ニ在リテ前方ニ向ヒ左三番砲手ハ内方ニ在リテ後方ニ向ヒ揚彈機ノ轉把ヲ取リ彈丸搬送手ノ呼號ニ應シテ彈丸ヲ扛ク
補給庫長ハ螺輪ヲ以テ彈丸ニ信管ヲ螺定シ彈丸ヲ淨拭シ彈帶ノ塗脂ヲ檢シ彈丸搬送手ヲシテ之ヲ砲側ニ搬送セシム
左右一番二番助手ハ彈提鏈及ヒ擔棍ヲ以テ補給庫長ヨリ示サレタル彈丸ヲ送彈車ニ載セ二名宛更番ニ砲側ニ搬送ス

搬送手砲側ニ至レハ送彈車ノ鉗録ヲ開キ揚彈機ノ鈎ニ吊セル彈提鏈ヲ取テ彈丸ニ掛ケ左一番助手或ハ左二番助手ハ送彈車ノ前方ニ位置シ兩手ニ彈丸ヲ支ヘテ「上ケ」ト呼ヒ左二番三番砲手ヲノ之ヲ扛上セシメ而シテ決シテ彈丸ヲ架匡ノ各部ニ觸突スルナカラシメ其側梁上面ノ上方ニ至レハ「待テ」ト呼ヒ之ヲ押シテ架匡上ニ致シ其場ニ停立ス他一名ノ搬送手ハ送彈車ノ后方ニ位置シ彈丸少シク扛レハ送彈車ヲ軌鐵ノ外ニ曳キ出シ其場ニ停立ス

左三番助手ハ「何吉瓦幾何」ナル令ニテ直ニ火工手ヨリ裝藥ヲ受

取リ藥囊ノ括目ヲ上ニシテ裝藥管ニ入レ之ヲ負テ砲側ニ至リ段階ニ上リ背面ヲナシ裝藥管ヲ置テ火砲ニ面ス

「込メ」ノ令ニテ左一番砲手ハ「扛ケ」ト呼ヒ彈丸ヲ扛ケシメ然ル後チ搬送手ハ送彈車ヲ以テ補給庫ニ至ル

左一番砲手ハ彈提鏈ノ前端ヲ取り右一番砲手ハ提把ヲ取り揚彈機ヲ回轉シテ彈丸ヲ裝填管上ニ載セ右一番砲手ハ提把ヲ外シ左一番砲手ハ彈提鏈ノ環ヲ左方ヨリ外シテ揚彈機ノ柱臂ヲ架匡側梁ト平行ナラシメ彈丸ノ淨拭塗脂、信管ノ緊着ヲ檢シ次ニ右一番砲手ト共ニ彈底ヲ押シ彈丸ノ圓壘部ヲ腔中ニ押入ス

右一番砲手ハ右二番砲手ヨリ撞桿ヲ受取り左一番砲手ハ其頭部
 ヲ信管ニ嵌メ左右一番砲手ハ相對向シ片手ニ其後端ヲ取り他手
 ニテ前方約五十。〇。米ヲ距テ、撞桿ヲ握リ左一番砲手ハ左足、右
 一番砲手ハ右足ヲ一步前方ニ開キ力ヲ極メテ彈丸ヲ彈室ニ撞入
 シ撞桿ヲ右二番砲手ニ復ス
 補註 通常演習ニ於テハ彈丸ヲ彈室ニ裝填セス撞桿ヲ以テ
 僅ニ腔中ニ押入シ然ル后チ左右一番砲手ハ片手ニテ裝填管
 ヲ壓シ他手ニテ提鑲ヲ取り彈丸ヲ裝填管上ニ抽出シテ彈提
 鑲ヲ掛ケ左一番砲手ハ其前端ヲ取り右一番砲手ハ提把ヲ取

リテ後方ニ引キ左二番三番砲手ヲシテ之ヲ下サシム彈丸搬
 送手ハ之ヲ送彈車ニ載セテ補給庫ニ至ル
 砲卒裝填操作ニ習熟セハ特ニ彈丸ノ裝填ヲ演習セシムルモ
 ノトス

左右一番砲手ハ左三番助手ヨリ裝藥管ヲ受取り片手ニテ把環ヲ
 取リ他手ハ底縁ヲ支ヘテ裝填管上ニ載ス左一番砲手ハ右手ニテ
 裝藥管ノ動底ヲ押シ裝藥ヲ藥室ニ入ル右一番砲手ハ裝藥管ヲ左三
 番助手ニ復シ左一番砲手ハ右手ニテ裝藥ヲ押入レ塞鑲室ヲ通過
 セシメ然ル后チ右手ニテ裝填管ノ握把ヲ握リ左腕ヲ管内ニ押入

シテ砲軸ニ準シテ徐カニ之ヲ抽出シ其前端ヲ下ケテ後面ニ向ヒ
右一番砲手ニ渡ス同砲手ハ之ヲ故位ニ復ス

補註 通常演習ニ於テハ擬製裝藥ヲ用ヒ左一番砲手裝藥ヲ

裝填シタル後更ニ之ヲ抽出シ右一番砲手ニ渡ス右一番砲手

ハ之ヲ左三番助手ニ復ス

左一番砲手ハ右一番砲手ヨリ木綿、麻屑ヲ受取リ閉鎖機竅、塞録
室、閉鎖機、塞録ヲ淨拭シ塞録ニ「グリスリン」油ヲ塗布シ指頭ヲ
以テ緊塞面ノ周圍ヲ摩シ其塗脂ヲ周カラシメ且ツ瑕瑾ナキヲ確
ムヘシ而シテ右一番砲手ノ助ケヲ以テ閉鎖機ヲ閉鎖シ門管ヲ螺

着シ拉繩ノ鈎ヲ右二番砲手ヨリ受取リ之ヲ締環ニ鈎シ速ニ定位
ニ就ク
右一番砲手ハ所要ニ從ヒ木綿、麻屑、木篋等ヲ器具囊ヨリ出シテ
左一番砲手ニ渡シ使用ノ後、同砲手ヨリ受取リ器具囊ニ復シテ
定位ニ就ク
左右三番砲手及ヒ左二番砲手ハ方向照準機ノ轉把ヲ取リ左右三
番砲手ハ内側ニ在テ後方ニ向ヒ左二番砲手ハ外側ニ在テ前方ニ
面ス

右二番砲手ハ左一番砲手拉繩ノ鈎ヲ門管ニ鈎スレハ左手ヲ約腕

ニ貫キテ自然ニ垂レ側梁ノ外側約七十〇〇米ニシテ砲尾ニ面シ拉
繩微張スヘキ位置ニ駐立ス

左四番砲手ハ「何度幾ッ」ナル令ニテ兩手ヲ以テ遊標ヲ示サレタ
ル分畫ニ定メ左右四番砲手ハ砲尾ノ閉鎖スルヲ見レハ直ニ駐轉
把ヲ開キ兩手ヲ以テ上下照準機ノ轉把ヲ取り兩足ヲ軌鐵ノ兩側
ニ置キ之ニ面シテ立ツ
左三番助手ハ左右一番砲手ノ彈丸ヲ裝填シ畢ルヲ見レハ裝藥管
ノ蓋ヲ開キ左右一番砲手ニ授ケ次ニ又右一番砲手ヨリ之ヲ受取
リ補給庫ニ至ル

教官ハ左一番砲手ノ閉鎖機ヲ閉鎖シ或ハ門管ヲ螺着スル間ニ於
テ右一番砲手ヲシテ横尺ヲ取ラシム然ルキハ閉鎖機ヲ押入スル
ノ後直ニ「幾ッ(右)左」ト令スヘシ
「狙ヘ」ノ令ニテ照準手ハ「右」「左」「遅ク」「速ク」「待テ」ナル呼號
ニテ匡尾ヲ左右セシメ照準ヲ行フ
左四番砲手右四番砲手ノ助ケヲ以テ砲ニ角度ヲ與ヘ各駐轉把ヲ
閉チ速ニ定位ニ就ク
照準了レハ照準手ハ「宜シ」ト呼ヒ砲車長ハ右手ヲ高ク上ケテ之
ヲ教官ニ報ス

「止メ」ノ令ニテ砲車長之ヲ復令シ左五番砲手ハ定位ニ就ク

補註 舊式砲架ニアリテハ「止メ」ノ令ニテ左五番砲手ハ轉輪

ヲ戻回ス轉輪ヲ戻回スルニハ先ツ該輪ニ運動ヲ與ヘテ兩手

ヲ放チ漸ク戻回スルニ從ヒ兩手ヲ輪縁ニ副ヘテ慣性ヲ減殺

シ扛起機ノ激撞ヲ避ケ然ル後チ更ニ該輪ニ運動ヲ與ヘテ架

匡下面ト軌鐵ノ密接ヲ確實ナラシムヘシ

次ニ砲車長「砲車」打テ」ナル令ヲ下シテ發射セシム

「砲車」ナル令ニテ右二番砲手ハ左足チ一步後方ニ開キ左手ハ

屈曲スルコナク拉繩ヲ微張シ指ヲ閉チ爪チ内ニ向ハシメ右手ハ

結節ヨリ約五十^〇米^〇ヲ隔テ、遊把ヲ握リ發射ノ準備ヲ爲ス

各砲手ハ砲口ニ注目ス

「打テ」ノ令ニテ右二番砲手ハ遊把ヲ強ク滑ラシ結節ニ激觸シテ

發火チ行ヒ然ル后チ拉繩ノ約腕チ脱シ砲架踏板上ニ置キテ定位

ニ就キ左一番砲手拉繩鈞チ門管ヨリ外セハ拉繩ヲ頸ニ掛ク

發射ノ後左右四番砲手ハ砲チ水平ニナシ左一番砲手ハ拉繩鈞チ

外シ發火シタル門管チ脱ス而シテ各々定位ニ就ク

第十九條

ヲ下ス

間接照準機ヲ以テ照準セシムル時ハ教官左ノ令

四段込方

- 一 堅鐵彈込メ
何吉瓦幾何
- 二 込メ
幾ツ右(左)
方向角何度幾ツ
何度幾ツ
- 三 狙へ
- 四 止メ

「込メ」ノ令ニテ照準手ハ直ニ架匡ノ前方ニ至リ「幾ツ右」「左」ノ令ニテ孤鏡ノ指針ヲ指示ノ分畫ニ定メ「狙へ」ノ令ニテ「右」「左」「速ク」「遅ク」「待テ」ト呼ヒ架匡ヲ左右セシメ指針ノ尖端ヲ指示ノ方向角ニ一致セシム

其他各砲手ノ諸動作ハ總テ前條ニ同シ

位置交換法

第二十條 各砲手ヲシテ其位置ヲ交換セシメント欲セハ教官左ノ令ヲ下ス

位置ヲ換へ

位置交換法

進メ

「位置ヲ換ヘ」ノ令ニテ左右一番砲手ハ裝填衣及門管囊ヲ脱シテ架匡踏板上ニ置キ右二番砲手ハ拉繩ヲ砲架踏板上ニ置ク而シテ砲側ニ在ル各砲手ハ右向ヲナス

「進メ」ノ令ニテ各砲手ハ逐次左ノ順序ニ依テ其位置ヲ交換ス

(第一圖)

左一番砲手ハ 左五番砲手ニ
左二番砲手ハ 左一番砲手ニ
左三番砲手ハ 左二番砲手ニ

左四番砲手ハ

左三番砲手ニ

右四番砲手ハ (架匡ノ前方ヲ通過スヘシ)

左四番砲手ニ

右三番砲手ハ

右四番砲手ニ

右二番砲手ハ

右三番砲手ニ

右一番砲手ハ

右二番砲手ニ

左一番助手ハ

右一番砲手ニ

左二番助手ハ

左一番助手ニ

左三番助手ハ

左二番助手ニ

右一番助手ハ

左三番助手ニ

右二番助手ハ

右一番助手ニ

左五番砲手ハ

右二番助手ニ

各砲手新位置ニ至レハ所要ノ器具ヲ取ル

補註 要スルキハ左五番砲手ハ火工手ニ火工手ハ右二番砲手ニ左一番助手ハ補給庫長ニ補給庫長ハ右一番砲手ニ交換

セシム

各砲手ヲシテ同時ニ數回位置ヲ交換セシメント欲セハ「幾度位置ヲ換ヘ」進メ」ナル令ヲ下シテ交換セシム

砲架前進法

第二十一條

射擊間砲架故位ニ復サ、ルキハ教官左ノ令ヲ

下ス

砲架前へ

此令ニテ左右三番砲手ハ背心輪ノ槓桿ヲ輪軸ニ嵌メ左三番砲手ハ「扛ケ」ト呼ヒ左右四番砲手ノ助ケヲ以テ架尾ヲ扛起シ砲架ヲ前進セシム砲架故位ニ復スレハ直ニ槓桿ヲ收メテ定位ニ就ク

第三教

隨意裝填法

第二十二條

各砲手已ニ四節裝填法ニ習熟セルキハ教官ハ

砲架前進法

隨意裝填法

隨意裝填ヲ行ハシム之カ爲メ左ノ令ヲ下ス

堅鐵彈込メ

何吉瓦幾何

幾ツ右(左)(方向角何度幾何)

此三號令ハ裝填中適宜ノ時期ニ下ス者トス

何度幾ツ

此令ニテ各砲手ハ四節裝填ノ條ニ記セル三節ヲ逐次ニ施行ス但シ照準手ハ右一番砲手ノ偏流ヲ規定スルヤ直ニ「狙へ」ト呼ビ左右ノ照準ヲナス

彈丸搬送手ハ補給庫ニ至ルヤ直ニ他ノ彈丸ヲ砲側ニ運搬ス

左右四番砲手ハ砲尾ヲ閉鎖スルヲ見レハ駐轉把ヲ開キ門管螺着ノ後直ニ砲ニ角度ヲ附與シテ其定位ニ就ク

砲車長ハ「止メ」ノ令ヲ復唱シ且ツ左ノ號令ヲ下シ發射ヲ行ハシ

砲車ニ打テ

「止メ」ノ令ニテ左五番砲手(舊式砲架ニアリテハ轉輪ヲ戻回シタル後)ハ定位ニ就キ「砲車ニ打テ」ノ令ニテ右二番砲手ハ已ニ說明セシ方法ニ從テ發射ヲナス

發射ノ後(舊式砲架ニアリテハ各砲手直ニ架匡ヲ扛起シ)左右四
番砲手ハ砲身ヲ水平ニナシ左右一番砲手ハ砲尾ニ至リ左一番砲
手先ツ拉繩鈎ヲ外シ俱ニ閉鎖機ヲ開キ塞鑲及塞鑲室ヲ檢シ黒班
又ハ瓦斯漏逸ノ痕跡ナキヤ瑕瑾ナキヤ否ヤヲ檢ス然ル后チ直ニ
裝填シテ發射ノ令ヲ待ツヘシ

補註 發火シタル門管ヲ脱スルハ砲身ヲ水平ニ爲ス間ニ於
テ一般動的ニ對スルハ照準ノ畢リヨリ發射マテ即チ「止メ」
ノ令ヨリ「打テ」ナル令ノ間ハ八秒時ナルヲ通則トス

第二十三條

發射ヲ停止セシメント欲セハ教官左ノ令ヲ下

ス
打止メ

此令ニテ左右四番砲手ハ砲車長ノ指示セル角度ヲ砲身ニ與ヘテ
駐轉把ヲ閉ツ(角度ノ指示ナキハ水平ニナスヘシ)

右二番砲手ハ右三番砲手ノ助ケヲ以テ洗桿ニ接續桿ヲ連接シ洗
頭ヲ石鹼水ノ桶中ニ浸ス

左右一番砲手ハ拉繩鈎ヲ外シ門管ヲ脱シテ閉鎖機ヲ開キ裝填管
ヲ閉鎖機竅ニ挿入シ掃桿ヲ以テ爐渣ヲ除キ然ル后左右二番砲手

ノ助ケヲ以テ石礮水ニ浸セル洗桿ニテ數回腔中ヲ拭ヒ燼渣ヲ除
 キテ淨拭塗脂ノ準備ヲ爲ス
 閉鎖機竅及閉鎖機各部ハ木綿、麻屑ニテ淨拭シ「ベルモンチー」
 油ヲ塗布スヘシ
 左三番助手ハ發射セサル裝藥ヲ、左右一番二番助手ハ發射セサ
 ル彈丸ヲ各々補給庫ニ戻送シ補給庫長ハ信管ヲ脱シ彈丸ヲ堆積
 セシム
 各砲手ハ定位ニ就ク

第二十四條

操作ヲ中止セント欲セハ教官左ノ令ヲ下ス

打方待テ

此令ニテ各砲手ハ直ニ操作ヲ止メ其場ニ止ルヘシ再ヒ操作ヲ行
 ハシメント欲セハ「始メ」ノ令ヲ下スヘシ

第二十五條

裝填間砲車長ハ彈帶、腔綫ノ起部ニ撞突スル
 ノ音響ニ注意シ若シ充分ナラズト認ムルトキハ裝填ノ復行ヲ命
 スヘシ此ノキ左右一番砲手ハ抽彈器ヲ以テ彈丸ヲ裝填管上ニ抽
 出シ再ヒ之ヲ裝填ス若シ手力ヲ以テ直ニ抽出シ難キキハ第二十
 一條ニ據テ之ヲ回出セシムヘシ

第二十六條

既ニ彈藥ヲ裝填セシ後「打止メ」ノ令アレハ砲

車長ハ第三十一條若クハ第三十二條ニ據リ之ヲ回出セシム

空射法

第二十七條 實射ニ擬セザル空射ハ「藥包込メ」「何度幾ツ」

「砲車ニ打テ」ノ號令ヲ下シ照準及ヒ彈丸ニ關スル操作ヲ除クモノトス

缺兵動作法

第二十八條 定員ノ内三名ヲ缺クモ尙ホ裝填操作ヲ行フ

ヲ得ヘシ故ニ缺兵アルキハ砲車長ハ照準手右二番若クハ左三番砲手ヲシテ之ニ換ラシム然ルキハ左ノ操作ヲ分任ス

左右四番砲手ハ其職務ノ他（舊式砲架ニアリテハ架匡ノ扛起ヲ掌リ）左四番砲手ハ揚彈機ヲ使用シ右四番砲手ハ器具ノ授受ヲナス

右一番砲手ハ其職務ノ他、發火ヲ掌ル

方向照準器ノ轉把ハ左二番及右三番砲手ニテ之ヲ使用ス

砲車長ハ照準手ノ職務ヲ兼ヌ

缺兵補充ノ操作ヲナサシムル爲メ教官左ノ令ヲ下ス

左（右）何番缺ケ

此令ニテ缺兵ハ位置交換ノ如ク其裝填具ヲ脱シ教官ノ指定セル

位置ニ退クモノトス
「打止メ」ノ令ニテ直ニ各兵舊位ニ復シ各自其職務ヲ執ルヘシ

第四教

砲身洗淨法

第二十九條 發射後砲車長ハ砲手ヲ指揮シ火炮ヲ淨拭スヘシ

左右ニ番ニ番砲手ハ石鹼水ニ浸セル洗桿ヲ以テ腔中ヲ洗淨シ
要スレハ清拭器ヲ石鹼水ニ浸シ左右一番ニ番ニ番四番砲手ハ
半員ツ、砲口砲尾ノ兩端ヨリ腔中ヲ洗淨ス然ル後清拭器ニ木綿

ヲ纏テ腔中ヲ拭ヒ防錆脂ヲ塗布ス
腔中ニ錆斑ヲ生シ或ハ燼渣凝着シテ洗淨シ難キ片ハ黃銅洗桿ヲ
使用シテ光澤ヲ生スルニ至ルヘシ
塞録室及ヒ閉鎖機竅ハ木綿、麻屑、木篋ヲ以テ淨拭シ防錆脂ヲ
塗布ス
砲身外部ハ布片ヲ以テ拭ヒ砲口栓、砲尾栓ヲ嵌メ砲架覆ヲ覆
フ
他ノ砲手ハ砲架架匡ノ各部ヲ淨拭シ砲床ヲ掃除ス
約二十四時間ノ後ヲ再ヒ清拭器ヲ以テ腔中ヲ淨拭シ防錆脂ヲ塗

布ス
閉鎖機及ヒ撐轉架ハ分解シ石礮水ヲ以テ洗淨シ次ニ淨拭シテ防
錆脂ヲ塗布ス

若シ暫時ニシテ再ヒ發射スルノ預想アルキハ閉鎖機ヲ分解スル
トナツ遊頭ヲ外シ「ベルモンチー」油ヲ以テ淨拭ス

砲架退却法

第二十条條 駐退機ノ機能ヲ檢シ或ハ架匡各部ヲ清掃スル爲
メ砲架ノ退却ヲ要スルキハ砲車長ハ先ツ有車臂及ヒ索ヲ砲側ニ
備ヘシメ「砲架後へ」ナル告諭ヲ下ス（砲架ヲ退却スルニハ一砲

車ノ人員ヲ以テスルヲ通則トス若シ砲卒ノ員數不足ナルキハ他
ノ助手ヲ用フルト得）此告諭ニテ左右三番砲手ハ有車臂ヲ背
心輪軸ニ嵌メ左右四番砲手ノ助ケヲ以テ索ヲ装着ス
左右一番二番砲手ハ方向照準機ノ轉把ヲ取リ其他ノ各砲卒ハ左
右ニ分レテ索ヲ取ル

各砲卒準備成レハ砲車長「進メ」ト呼ヒ左右一番二番砲手ハ轉把
ヲ回轉シ其他ノ砲卒ハ力ヲ協セテ索ヲ牽引ス
架尾扛起シテ全ク背心輪上ニ托スルキハ砲車長若クハ左三番砲
手ハ逐次ニ「一」「二」ト呼ヒ各砲卒ハ此呼號ニ應シテ砲架ヲ退却

砲架退却法

ス
砲架適宜ノ位置ニ退却スレハ砲車長「止レ」ト呼ヒ各砲卒ハ力ヲ
寬ムルコナク其位置ニ停立ス

暫時後坐ノ位置ニ保持セント欲セハ一支材ヲ砲架ノ前端ト架匡
トノ間ニ支撐セシム

砲架ヲ前方ニ復サシムルニハ砲車長ハ「砲架前へ」ト呼フ而シテ
駐退機ノ機能ヲ檢スル爲メナルキハ索ヲ一時ニ寬メシム若シ液
體ヲ管内ニ注入シアラサルキハ漸次ニ前進セシムルヲ要ス

彈藥回出法

第三十一條 彈藥ヲ回出セシメント欲セハ教官左ノ令ヲ下
ス

彈藥出セ

此令ニテ左三番助手ハ裝藥管ヲ携ヘテ砲側ニ至リ彈丸搬送手ハ
送彈車ヲ率テ揚彈機ノ側ニ至ル

左右四番砲手ハ砲ヲ水平ニシテ駐轉把ヲ閉ツ

左右一番砲手ハ架匡ニ上リ閉鎖機ヲ開キ左一番砲手ハ先ツ裝藥
ヲ抽出シ右一番砲手ヲシテ之ヲ左三番助手ニ復サシメ次ニ右二
番砲手ヨリ抽彈器及ヒ其屬具ヲ受取り右一番砲手ノ助ケヲ以テ

抽彈器ノ櫻爪ヲ彈丸ノ提鑲ニ鈎シ支鐵ヲ桿端ニ貫キ水平ニナシテ之ヲ砲尾面ニ支撐セシメ次ニ坐鉸ヲ嵌メ牝螺ヲ螺裝シ其周圍ニ穿テル圓孔内ニ轉桿ヲ插入シ以テ牝螺ヲ緊壓シ漸次彈丸ヲ緩脱ス

彈丸少シク抽脱セルキハ牝螺、坐鉸及ヒ支鐵ヲ除キ抽彈器ヲ架匡上ニ置キ裝填管ヲ取テ之ヲ閉鎖機竅ニ挿入シ次ニ抽彈器ヲ取テ彈丸ヲ裝填管上ニ抽出ス此時左右一番砲手ハ片手ニテ裝填管ヲ強壓シテ其脱出ヲ防クヘシ

次ニ抽彈器ヲ右ニ番砲手ニ復シ揚彈機ヲ回轉シテ彈提鏈ヲ彈丸

ニ掛ケ左ニ番三番砲手ヲシテ之ヲ下ロサシム搬送手ハ送彈車ニ載セ補給庫ニ回送ス補給庫長ハ信管ヲ螺脱シ彈帶其他ノ部分ヲ檢シテ之ヲ堆積セシム

右一番砲手ハ裝填管ヲ故位ニ復シ左右一番砲手ハ閉鎖機ヲ閉シテ定位ニ就ク

此操作間抽彈器及ヒ屬具ヲシテ閉鎖機其他火砲ノ各部ニ觸レサル事ニ注意スヘシ

第三十二條

前法ヲ以テ彈丸ヲ抽出シ難キキハ教官回彈器ヲ使用セシム

左右一番砲手ハ閉鎖機ヲ開キ裝藥ヲ出ス。前條ノ如シ爾ル後擬製裝藥或ハ毛布、麻屑等ヲ藥室ニ填入シテ閉鎖機ヲ閉ツ。左右四番砲手ハ砲ヲ水平ニナシ駐轉把ヲ閉チテ其位置ニ止ル。左右三番砲手ハ倉庫ニ至リ回彈器ニ索ヲ附シ之ヲ携ヘテ砲側ニ來リ左二番砲手ノ助ケヲ以テ凹部ヲ砲底ニ向テ砲口ニ入レ左三番砲手ハ索ヲ取テ之ヲ維持ス。砲車長ハ其準備成ルヲ見レハ「上ケ」ト令シ左右四番砲手ヲシテ砲ニ仰角ヲ附與セシメ次ニ左二番砲手ハ頓ニ索ヲ弛メテ回彈器ヲ彈頭ニ墜下セシム。

通常一回ノ墜下ニテ彈丸ヲ緩脫スルニ足ルト雖モ要スレハ數回同法ヲ復行スヘシ。

閉鎖機及撐轉架ノ裝着分解

第三十三條

閉鎖機及撐轉架ヲ砲ニ裝着シ或ハ之ヲ分解スルニハ左右一番砲手專ラ之ニ任シ其他ノ砲手ヲ以テ助手トナス。

砲車長ハ諸動作ヲ指揮監督シ決シテ不慮ノ過失ヲ生スルコトナキニ注意スヘシ。

操作ヲ始ムル前預メ平板上ニ毛布或ハ布片ヲ敷キ分解セル諸具

閉鎖機及撐轉架ノ裝着分解

ヲ順次ニ併置シ彼是混淆スルコトナカラシメ且ツ左ニ記スル諸器具ヲ備フ

- 木槌 一
- 各種兩頭轉螺子 各一
- 兩頭螺鑰 一
- 螺鑰 一
- 駐頭牝螺鑰 一
- 固定螺子鑰 一
- 門管螺鑰 一

- 矩形螺鑰 一
- 遊頭提鑰 一
- 鐵桿 一
- 索繩 一
- 木篋 若干
- 裝填衣 二
- 木綿 若干
- 「ベルモンチー」油罐 一
- 脂肪罐 一

第三十四條

閉鎖機ヲ装着スルニハ左ノ順序ニ據ルヘシ

第一 頭板ノ裏面ヲ上方ニナシテ平置シ塞環ヲ嵌装ス

第二 遊頭ヲ螺着ス其螺子ヲ固定スルニハ各個平等ニ螺入ス

ルヲ要ス否ヲサレハ偏倚シテ某部ノ接着完全ナラサル
トアルヘシ

第三 撐轉架ヲ開キ揚彈機ヲ使用シテ閉鎖螺體ヲ閉鎖機竅ニ

挿入ス

第四 撐轉架ヲ閉チ閉鎖螺體ヲ抽出シテ之ヲ開ク

第五 遊頭ヲ装着ス其法遊頭ノ側面ニ設クル孔ニ遊頭提環ヲ

螺定シ揚彈機ヲ以テ之レヲ上ケ銅板ヲ嵌装シ然ル後チ
螺體ノ孔中ニ挿入ス

第六 銅環ヲ嵌装シテ駐頭牝螺ヲ螺着ス

第七 火門軸ヲ螺着ス

第八 齒輪ヲ内方ヨリ螺體臂ノ孔ニ挿入シ轉把ヲ附シテ螺駐
子ヲ螺定ス

第九 閉力及遊頭旋回ノ適否ヲ檢シ要スレハ銅環及ヒ銅板ヲ
加減シテ之ヲ修正ス

第十 火門蓋ヲ装着ス

第三十五條 閉鎖機ノ分解ハ装着法ノ反對順序ニ因ルヘシ
而シテ閉鎖螺體ヲ脫除スルハ撐轉架上ニ抽出シ右方ニ開キタル
位置ニ在テ揚彈機ヲ使用シ前方ニ押脫スルヲ異ナリトス

第三十六條 撐轉架ノ装着ハ左ノ順序ニ據ルヘシ

- 第一 抽機螺ヲ装着シ前後ノ坐釵ヲ螺着ス
- 第二 發條筒ニ發條ヲ裝入シテ之ヲ螺定ス
- 第三 駐開器ヲ装着ス
- 第四 駐閉器ヲ装着ス
- 第五 樞軸及坐飯ヲ以テ撐轉架ヲ砲尾ニ装着ス

第三十七條 撐轉架ノ分解ハ装着法ノ反對順序ニ據ルヘ

第二章 數砲操法

總則

第三十八條 數砲操法ハ成レヘク砲臺ニ就キ實射ニ模擬シ

テ演習スヘキモノニシテ演習場ニ於テ施行スルハ例外ナリ

第三十九條 兵卒已ニ第一章ニ記載シタル諸般ノ演習ニ習

熟スレハ砲數門ヲ使用シ中隊ニ於ケル砲ノ操法ヲ教授ス

各砲車ハ右翼ヨリ番號ヲ附スルモノトス而シテ小隊ハ通常二門

ヨリ成ル、小隊モ亦右翼ヨリ番號ヲ附ス

第四十條

中隊長ハ中隊ヲ指揮シ適宜ノ位置ヲ占ム各小隊ハ小隊長、各砲車ハ砲車長之ヲ指揮ス

砲手砲側ノ定位ニアルキ各小隊長ハ其小隊ノ中央後適宜ノ地ニ位置ス

第四十一條

中隊長ハ號令ヲ下スニ方リ刀ヲ肩ニスヘシト雖モ射擊間ハ刀ヲ納ムルモノトス

砲手砲側ノ定位ニアルキ中隊長ノ號令ハ凡テ小隊長之ヲ復令ス

下士以下ノ携帶セル武器ハ砲側ニ進入スルニ先チ指定ノ地ニ置クモノトス

第一教

操法ノ準備

第四十二條

操法ヲ始ムル先チ第九條ニ示セル各砲車ニ要スル兵員ヲ集合シ横隊ニ編制ス(第二圖、第二、第三班ニ準ス)

中隊長「持場へ」ノ令ヲ下ス此令ニテ各砲車長及補給庫長ハ砲車及補給庫ノ位置ニ從ヒ其部下ヲ右或ハ左ヘ二列側面行進ヲ爲サシメ之ヲ誘導シ砲後或ハ補給庫ノ後方ニ至リ第九條ノ如ク整列

セシム

然ル後中隊長「掛レ」ノ令ヲ下ス此令ニテ各兵員ハ第十三條ノ操
作ヲ爲シ次ニ砲車長及補給庫長ハ單砲操法ニ示シタル如ク檢査
セシメ遺漏及故障ナキヤ否ヤヲ小隊長ニ報ス小隊長ハ之レヲ中
隊長ニ報ス

終業

第四十三條 各砲卒ヲシテ砲後及ヒ補給庫ノ後方ニ整列セ
シメント欲セハ中隊長左ノ令ヲ下ス

下カレ

此令ニテ各兵員ハ第十四條ノ如ク動作シ砲後及ヒ補給庫ノ後方
ニ整列ス次ニ中隊長ヲ集合セシメント欲セハ中隊長左ノ令ヲ下
ス

集レ

此令ニテ各砲車長及補給庫長ハ集合地點ノ位置ニ依リ其部下ヲ
シテ右或ハ左ヘ二列側面行進ヲ爲サシメ之レヲ誘導シテ所定ノ
地ニ集合ス

第四十四條

操法ノ準備及終業ノ諸運動間小隊長ハ適宜ノ
地ニアリテ其部下ノ動作ヲ監視ス

四節裝填法

第四十五條

此演習ハ單砲操法ニ於テ既ニ砲卒ニ教授シタルヲ以テ本教ニアリテハ中隊長其操作ノ確實ナルヤ否ヤヲ檢スル爲メニ行フモノナリ

中隊長ハ第十八條及第十九條ニ示セル如ク號令シ各砲卒ノ操作モ同條ニ於ケルト異ルヲナシ

隨意裝填法

第四十六條

此演習ハ直接照準或ハ間接照準タルニ係ハラズ總テ單砲操法ニ於ケル如ク施行ス只各種ノ射放チ行フニハ左

ニ記載スル處ノ基則ニ從フヘキモノトス

第四十七條

發射チ施行セント欲セハ中隊長ハ第二十二條ノ號令ヲ用ヒ各砲車ハ同條ノ如ク裝填及照準チ行フ

發射チ始ムルニ先テ中隊長ハ各小隊長チ己レノ傍ニ集メテ目標チ指示シ小隊長ハ之レヲ砲車長ニ示ス若シ目標明了ナルキハ小隊長チ集メサルモ妨ケナシ

初發ニ在テハ砲車長ハ必ス照準手ノ目標及照準點チ謬ラサルヤ否ヤヲ檢ス爾后時々之レヲ點檢スルヲ要ス

照準終レハ砲車長高ク右手チ上ケテ之レヲ小隊長ニ報シ小隊長

モ亦高ク右手ヲ上ケテ「第何」ト呼ヒ照準完了セル砲車ヲ中隊長ニ報ス

發射セシムル爲メ中隊長左ノ令ヲ下ス

第何 止メ

此令ニテ砲車長「止メ」「砲車」打テ」ノ令ヲ下シ其砲車ヲシテ發火セシメ然ル後直チニ裝填シテ照準セシム

第四十八條

中隊、半隊若クハ小隊ノ齊發ヲ爲サシメント欲セハ中隊長左ノ令ヲ下ス

中隊(半隊)(小隊) 齊發

止メ(第何半隊止メ) (第何小隊止メ)

中隊||打テ(半隊||打テ)(小隊||打テ)

「打テ」ノ令ニテ各砲車ハ一齊ニ發射シ直チニ裝填シ諸準備ヲ整ヘテ中隊長ノ令ヲ待ツ

半隊小隊齊發ハ小隊長ノ令ヲ以テ發射スルモノトス

第四十九條

發射ヲ停止セシメント欲セハ中隊長左ノ令ヲ下ス

打止メ

此令ニ於ケル操作ハ第二十三條ニ示シタルカ如シ

第五十條

發射ヲ中止セント欲セハ中隊長左ノ令ヲ下ス

打方待テ

此令ニ於ケル操作ハ第二十四條ニ示シタルカ如シ再ヒ操作ヲ行ハシムルモ亦同條ニ從フヘシ

目標變換法

第五十一條

目標ヲ變換セント欲セハ中隊長左ノ令ヲ下ス

目標ヲ換ヘ

或ハ

目標ヲ右(左)ニ換ヘ

中隊長ハ此令ニ繼キテ新目標ヲ小隊長ニ指示シ各砲車ハ新目標ヲ照準スヘシ

第二教

第五十二條

已ニ前教ニ於ケル諸演習ニ習熟シタル後始メ

テ本教ノ演習ニ移ルモノトス
本教ハ一中隊ニ於ケル指揮及部署ノ範則ヲ示スニ過キス實際砲臺ノ結構、同一ナラサルカ故一定不變ノ細則ヲ規定スル能ハス
須ラク本教ニ則リ臨機其宜シキニ從フヘシ

中隊ノ班別

目標變換法 中隊ノ班別

一砲臺ハ中隊長ノ指揮ニ屬シ各其任務確實諸操作神速ナルヘシ故ニ各一意其本務ニ從事シ決シテ他事ヲ顧ルヘカラス

第五十三條 一中隊ノ兵員ヲ數班ニ區分シ各一ノ主務ヲ專

任ス即チ左ノ如シ

第一班 觀測所ノ勤務及命令ノ傳達ヲ掌ル

第二班 裝填發射ヲ掌ル

第三班 彈藥ノ補給ヲ掌ル

第四班 彈藥ノ補給及調製ヲ掌ル

第五班 欠員ノ補充及死傷者ノ運搬ヲ掌ル

時宜ニ由リ第二班中ノ二名ノ士官ハ各半隊ヲ指揮シ他一名ノ故參士官ハ適宜ノ地ニアリテ中隊長ヲ補佐シ其號令ヲ傳達シ且ツ裝填發射ヲ監視ス

戰鬥準備

第五十四條 中隊長ハ先ツ各班ヲ區分シ各班長ヲ指示シ第

二圖ニ準シテ整列セシム

中隊長各班ヲシテ持場ニ就カシメント欲セハ左ノ令ヲ下ス

持場へ

此令ニテ各班ハ第一班ヨリ順次分解シ第二第三班ハ第四十二條

ニ示セル如ク動作シ其他ハ各班長之レヲ引率シ凡テ駈歩ヲ以テ各々其持場ニ至ル

第二第三班ハ各其持場ニ至レハ諸器具ヲ整備シ第四十二條ニ於ケル如ク砲後或ハ補給庫ノ後方ニ整列ス

總テ第一班第三班第四班第五班ノ勤務ニ於ケル規定ハ觀測教範及砲臺勤務ニ準據スヘキモノトス

第五十五條

操法ヲ始ムルニ先チ中隊長「掛レ」ノ令ヲ下ス此令ニテ各砲車ハ第四十二條ニ記載セル操作ヲ爲ス

發射

第五十六條

中隊長發射ヲ施行セント欲セハ第一教及ヒ射擊教範ニ記載スル方法ニ從フヘシ

放火ノ開始及停止前ニハ先ツ「打始メ」及「打止メ」ノ號音ヲ吹奏セシムルモノトス

集合

第五十七條

終業ニ當テ中隊長ハ「下カレ」ノ令ヲ下シ第一教ニ示セル如ク第二班及第三班ヲシテ砲後及ヒ補給庫ノ後方ニ整列セシム次ニ「集レ」ノ號音ヲ吹奏セシム此號音ニテ各班長其部下ヲシテ諸器具ヲ整頓セシメ之レヲ引率シテ所定ノ集合點ニ至ル

附錄

第一章

砲、砲架、架匡及砲床ノ名稱

砲身

第一條 凡ソ砲トハ單ニ砲身ノミヲ稱シ或ハ砲身、砲架、架匡

ヲ總稱ス砲車トハ砲身、砲架、架匡ヲ總稱ス

砲身ノ外部ハ之レヲ二部ニ分チ段界部ヨリ前方ヲ前身トシ後方

ヲ後身ト稱ス

前身ニハ左ノ各部ヲ含有ス

砲口、砲口面、齒弧連結鉸、

後身ハ裝箍部ニシテ左ノ各部ヲ含有ス

段界部、砲耳箍、砲尾、砲尾面、

齒弧、
駐筭、

閉鎖界線、駐開爪、齒弧連結鉸、
撐轉架軸匡、駐閉爪、

砲腔ハ砲身ノ內空部ニシテ左ノ各部ヨリ成ル

腔綫、彈室、藥室、一號及二號塞鑲室、

閉鎖機竅ハ左ノ各部ヨリ成ル

遊頭室、螺絲部、平滑部、

閉鎖機ハ左ノ各部ヨリ成ル

螺體、

臂、抽機牝螺、

握把、

轉把、

齒輪、

遊頭、

頭體、

固定螺子、鋼板、

火門軸、

(小門管軸)

駐頭

牝螺、

銅環、

火門蓋、

撐轉架ハ左ノ各部ヲ含有ス

架體、

樞軸、

坐釵、

發條筒、

發條、突子、

塞螺、

阻

機桿、

勒鉸、又臂、

駐開機、

駐開桿及勒鉸、

轉軸、

握把、

駐閉機、

有錘鉤、

抽機具、

轉把、抽機螺、

軸幹、坐釵、

砲架

第二條

砲架ハ之ヲ大別シテ側釵及上下照準機ノ二部トス

側釵ハ左ノ各部ヲ含有ス

照星、

表尺脚、

砲耳室及砲耳室釵、

砲耳蓋

釵、

駐栓、

火門針孔、

釵履、

衝鐵、

架頭輪、

背心輪及軸、

踏釵、

架底、

橫釵、

油罐鉤、

駐退扣、

上下照準機ハ仰角六十五度俯角十度ヲ得セシム而シテ左ノ各部

ヨリ成ル

射角鉞、 指針臂、 指針、 遊標、 齒弧、 起動齒輪及軸、 傳動齒輪及軸、 轉把、 駐轉把、

架匡

第三條

架匡ハ扛起機、方向照準機、駐退機、退却機及揚彈機ヲ含有ス

架匡ハ左ノ各部ヨリ成ル

側梁、 準軌、 底鉞、 鉸眼、 前底鉞、 踏鉞、

裝填管褥、 橫鉞(前中後)、 階段、 制衝機(前後)、
發條、 匡頭輪、 輪匡、 匡尾輪、 輪匡、 匡頭鉞、
照準踏鉞、 鐵欄、 扛起機(前後)、 發條、 軸、
駐化螺、 發條、
匡、

舊式砲架ノ扛起機ハ左ノ各部ヨリ成ル

轉輪、 駐轉把、 支柱、 受鐵、 受鉞、 轉軸、
圓臺齒輪、 傳動軸、 圓臺齒輪、 扛起桿、 扛起輪、
輪匡、

方向照準機ハ左ノ各部ヨリ成ル

水平軸、齒輪、轉把、駐鉤、離合齒輪、握把、雙軸

盤垂直短軸、圓臺齒輪、垂直長軸、齒輪、誘導齒輪、

軸叉、齒輪、遊標、齒輪、指針、

駐退機ハ左ノ各部ヨリ成ル

駐退管、注入孔、活塞、幹、瓣、導臂、發條、管蓋

及管底、銅環及注出孔、

砲架退却機ハ左ノ各部ヨリ成ル

滑車、揚彈機ハ左ノ各部ヨリ成ル齒輪、有車臂、索、

柱、柱臂、滑車、鼓胴、齒輪、狼牙、轉把、索、

砲床

第四條 砲床ハ左ノ各部ヨリ成ル

床礎、木材、鐵鈕、鐵鈕座、軌鐵、石材、床鋸、齒緣鋏、沈定螺桿、結合鋏、角度鋏、

砲床

第二章

彈藥裝填具及附屬器具ノ名稱

第五條

二十八珊米榴彈砲ノ彈丸ハ堅鐵彈ノ一種ニシテ其全體ヲ區分シ尖頭、蛋形部、圓壩部、彈帶、彈底、眼孔、提環及炸藥室トス眼孔ハ炸藥ノ裝填口ニシテ又此ニ着發信管ヲ裝ス

炸藥ノ重量ハ九吉瓦五百、全備セル彈量ハ二百十六吉瓦八百トス

裝藥ハ藥囊ト稱スル一布囊ニ入レ五吉瓦ヨリ二十吉瓦ニ至ル十
四種ノ裝藥量ヲ用ユ而シテ十四吉瓦五百迄ハ野砲藥其以上ハ第

一號漸猛藥ヲ填實ス

第六條

門管ハ裝藥ニ點火スルノ具ニシテ螺門管及小門管ノ二種アリ其締環ハ拉繩鉤ヲ鈞スルニ供ス

第七條

裝填操作ノ要具ハ左ノ如シ

- 表尺、縱絲、分畫、象限儀、水準器、遊標、修正螺、
- 橫尺、標矢、氣泡、壓螺、標錘、
- 分畫、底飯、撞桿、柄、標環、掃桿、
- 裝填管、握把、
- 頭、柄、洗桿、頭、握把、洗桿接續桿、握把、
- 柄、門管螺鑰、柄、門管囊、負革、扣子、火門針、對扣革、 鞋、

拉繩、遊把、鈎、約腕、裝填衣、背心輪槓桿、索、

器具囊、負革、扣子、對扣革、器具架、水桶、提把、

油罐、開栓、握把、扛起螺鑰、

第八條 附屬具左ノ如シ

砲口栓、砲架覆、砲尾栓、抽彈機、牝螺、坐飯、

轉桿、支鐵、回彈器、清拭器、索、黃銅洗桿、頭、

握把、火門擴開針、鞞、鐵桿、脂油刷毛、

脂肪罐、油差、漏斗、「リツトル」盒、「デカリ

ツトル」盒、駐頭牝螺鑰、固定螺子鑰、矩形

螺鑰、兩頭螺鑰、螺鑰、自在螺鑰、鎚頭螺鑰、

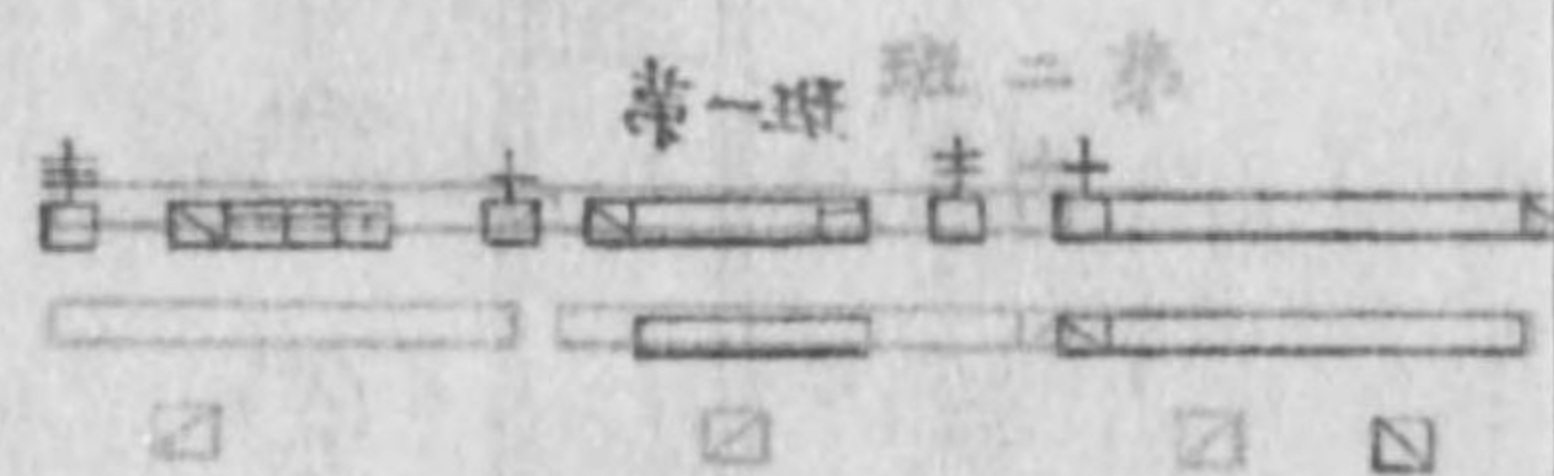
一號 二號 三號 四號螺鑰、三號砲床螺鑰、兩頭大螺鑰、砲架

用螺鑰、駐退管用螺鑰、信管螺鑰、兩頭轉

螺子、轉螺子丁字柄及木柄、砲床用轉螺子、

堆彈叉鐵、木槌、遊頭提環、

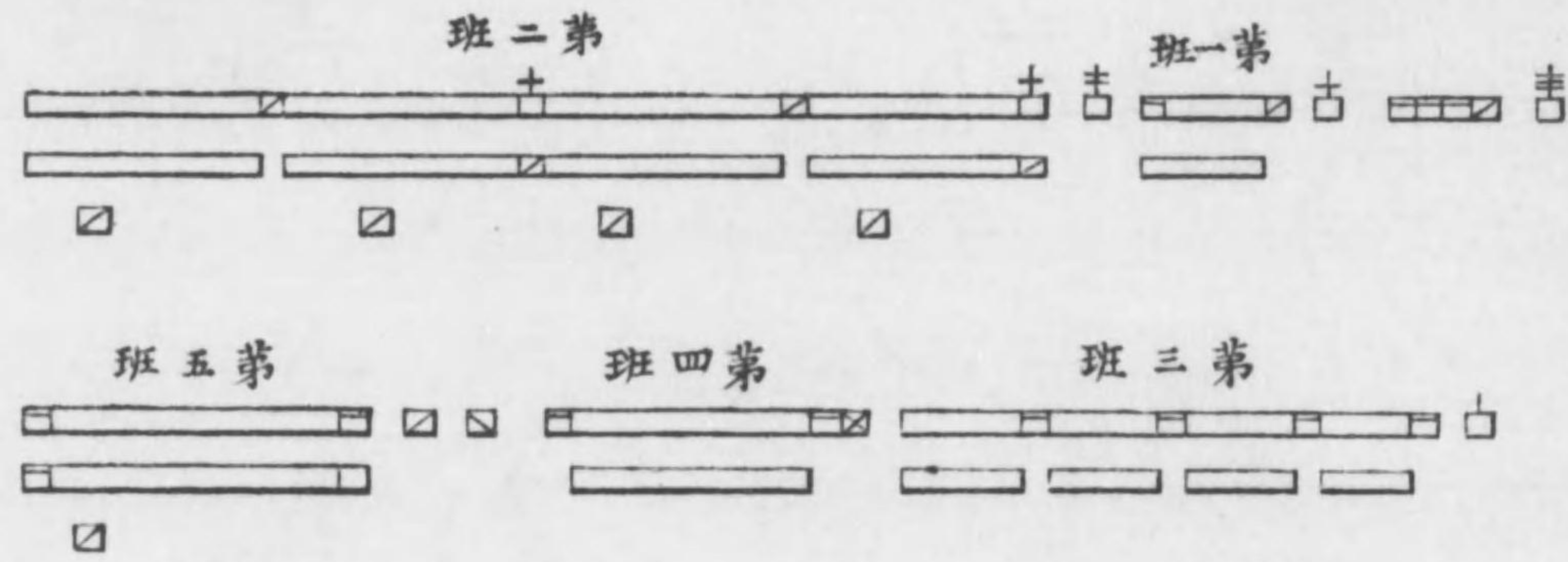
策



日 上卷兵
 口 軍曹
 口 總養軍曹
 口 火二卷軍曹
 口 曹身
 口 中保
 口 大保

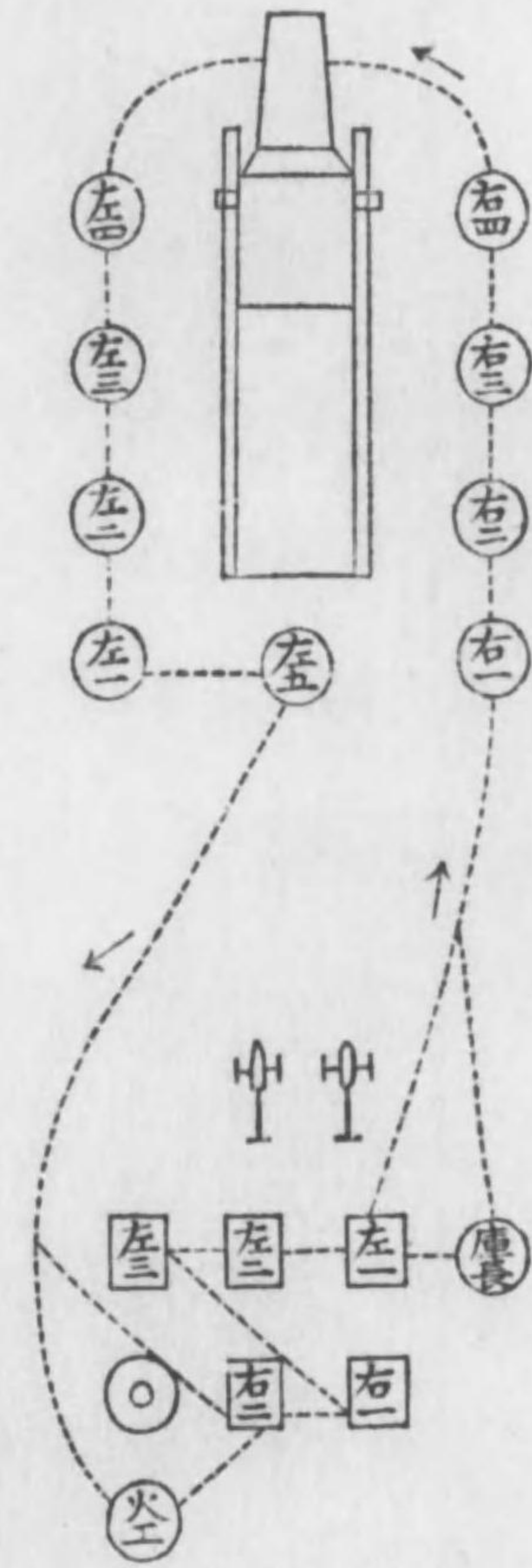
本國... 前... 後...
 (The text in this section is extremely faint and mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side of the page.)

圖 二 第



大尉
中尉
少尉
曹長
火二軍曹
給養掛軍曹
上等兵

圖 一 第

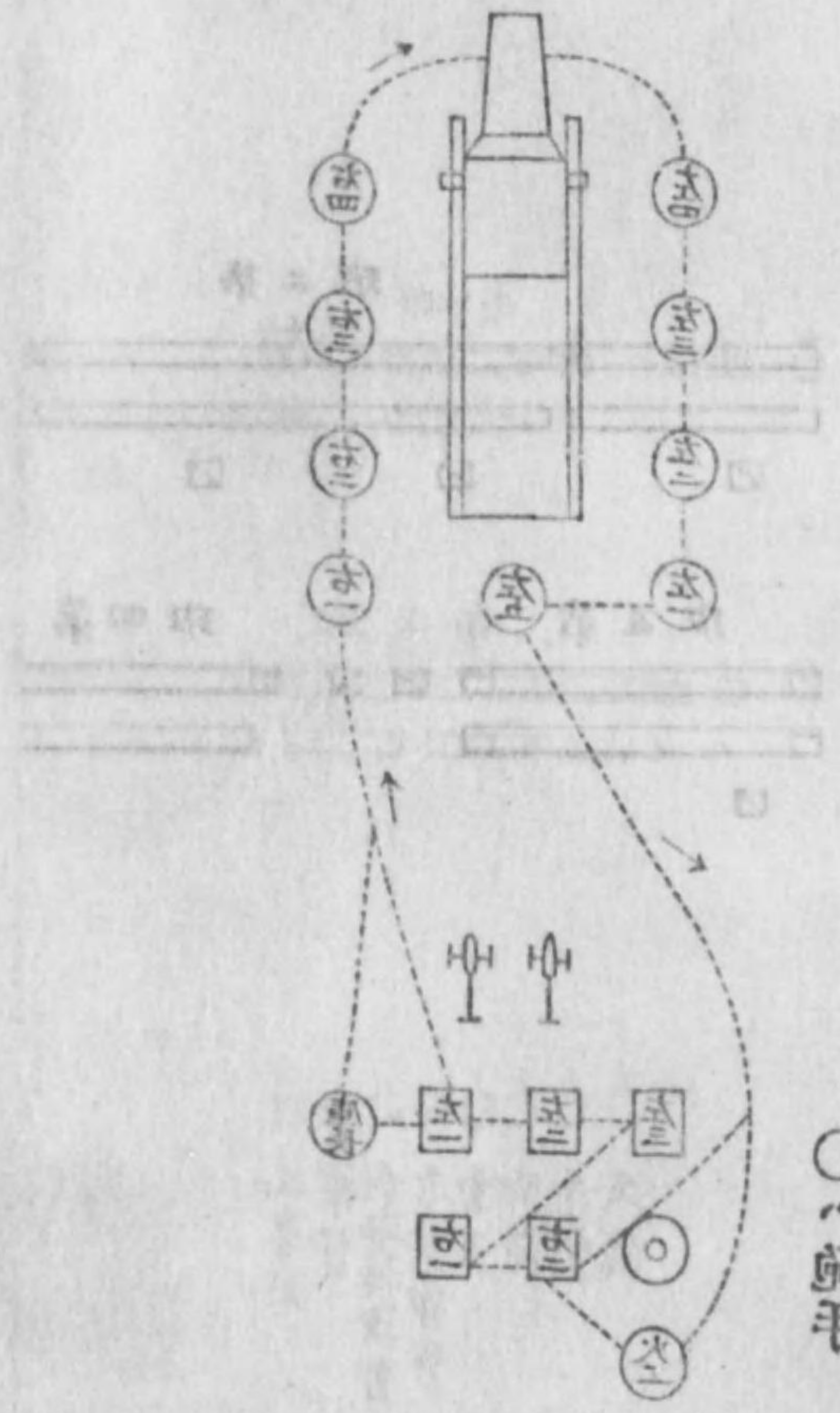


砲手
助手
裝藥管

Figure 1: Diagram of gun emplacement personnel roles and positions.

Figure 2: Diagram of the formation of five classes and their constituent ranks.

圖一 儀



明治廿三年十一月七日印刷
 明治廿三年十一月七日出版

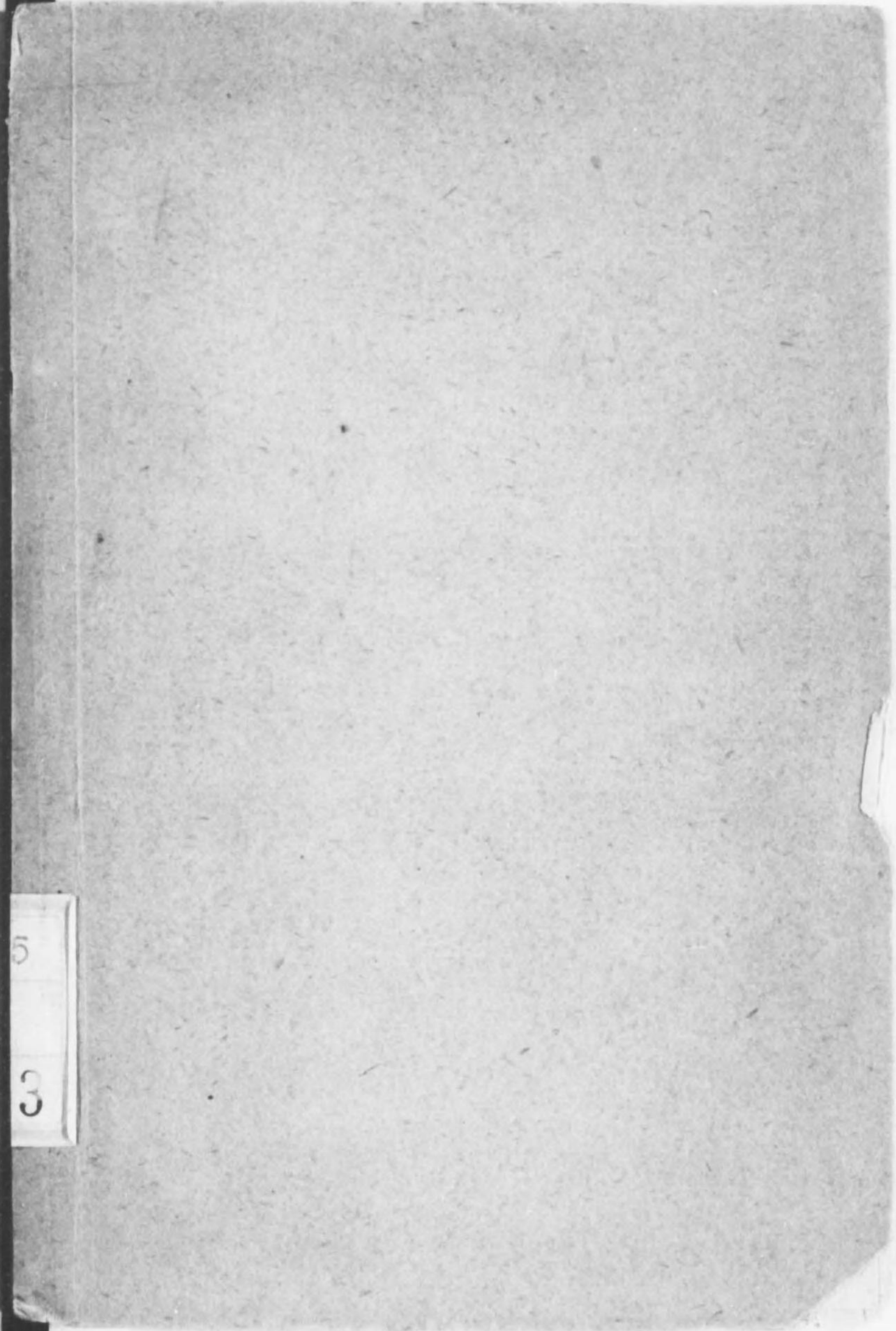
陸軍省印刷御用

翻刻 東京府平民

發行者兼
 印刷人

小林又七
 京橋區五郎兵衛町
 二十一番地

終



5
3